

Digest of Science of Labour

労働の科学

2023
September
Vol.78, No.9



無責任な泉,1981 / 菅沼 緑

特集

働きやすい職場環境の構築と人材育成

共に支えあい,共に成長し,共に栄える職場づくり / 株式会社キョウエイ
働く女性を支援する仕組みづくり / 株式会社 Realize
社員の本音を引き出す「会社の保健室」を整備 / 株式会社セレブリックス

巻頭言

「労働の科学」と私
椎名和仁

新連載

グリーンケアとリーガルケア①
細川 潔

連載

漂流者たち—クミジヨの肖像③⑩
本田一成

ILOインド南アジア産業安全保健通信⑨
川上 剛

自由と想像⑨
菅沼 緑

労働の科学

2023
September
Vol.78, No.9

巻頭言

俯瞰 (ふかん)

「労働の科学」と私

1

椎名 和仁 [住友電設株式会社 情報通信システム事業部]

表紙作品：菅沼 緑「無責任な泉，1981」

材料：木材

会場：藤沢市民ギャラリー

年度：1981年

撮影：大倉康範



働きやすい職場環境の構築と 人材育成

共に支えあい，共に成長し，共に栄える職場づくり

[株式会社キョウエイ]5

働く女性を支援する仕組みづくり

[株式会社Realize (リアライズ)]10

社員の本音を引き出す「会社の保健室」を整備

[株式会社セブリックス]14

Series

ILOインド南アジア産業安全保健通信 (9)

農民組織との協力

—インド、テランガナ州綿花栽培農家における産業安全保健サービスの進展—川上 剛20

「#教師のバトン」で伝わる (27)

教職員の過酷な勤務環境藤川 伸治23

Series

芸能従事者の今 (21) 顕在化した過重労働と白書.....	森崎 めぐみ	27
漂流者たち クミジョの肖像 (30) 『クミジョ白書2021』 (7).....	本田 一成	36
グリーンケアとリーガルケア (1) 相続編.....	細川 潔	38

Column

自由と想像 (9) 彫刻に向かって.....	菅沼 緑	41
KABUKI 極付印度伝 マハーバーラタ戦記 歌舞伎で生きる人たち その甘——確かなる太陽のひかり	湯浅 晶子	42
Talk to Talk わが振りは	肝付 邦憲	46
BOOKS 『産業保健の国際共通課題 すべての労働者にサービスを届けるために』 グローバルな視点で産業保健の未来を示唆	森口 次郎	48
『激安ニッポン』 デフレスパイラルからの脱却	椎名 和仁	49
『ヒューマンエラーの心理学 労働災害防止を現場から学ぶ』 事故事例の検証を通して労働災害と向き合う	岸田 孝弥	50
労働科学のページ		51
次号予定・編集雑記		64

「労働の科学」と私

皆さん、こんにちは。いつも「労研アーカイブ」と「書評」にお付き合いいただき誠にありがとうございます。本日はこの記事に関するエピソードをお話したいと思います。

私が「労研アーカイブ」を書くきっかけは、労研が主催する「産業安全保健エキスパート養成コース」の修了者（4期生・2007年）であったこともあり、7年前に前任者からの推薦を受けて「労働科学」に掲載された論文を要約して紹介することを任せられました。当初は軽い気持ちでお引き受けしましたが、専門用語が多い論文を読むだけでは、著者の主張、当時の時代背景やテーマの選定、取り組んだ研究が現在どのように活かされているのかを理解することができないため、1つの論文を紹介するのに関連する文献や書籍を10本くらい、多い時には海外の文献を含め20本くらい目を通し、さらに著者自身に直接、お話を伺ったりします。調査した文献は、紹介する論文と近かったり、かなりかけ離れたものだったりしますが、締め切り日がありますので原稿と格闘しながら何とか頑張っています。そして、原稿が仕上がると井上先生（労研）に校閲していただいた後、永田さん（編集責任者）に提出します。井上先生にはいつも丁寧なご指導をいただ

き感謝しております。その後、ゲラ刷りが仕上がってきまして「著者の論考を上手く伝えることができたか」、「もう少し表現を見直した方が良かったか」などと反省と後悔の繰り返しですが、次の締め切りがあるため、また新たな論文を読み込んでいくという日々です。

ある時、ふと本誌で新書というコーナーに目が止まり、本の内容が分かりやすく紹介されていて、私も文献の調査で目に止まった本や話題書を紹介してみたくなりました。そこで、永田さんに相談したところ、数日後に「本のジャンルは幅広く、本の選定は一任するので記事を書いてもらって結構です」という返事があり、2021年3月から記事を掲載させていただくことになりました。この記事は書評という分類になりますが、本誌の購読者は安全衛生分野の専門家が多いため、この方々が興味を持って、手に取ってもらえる本を選ぶように心掛け、要点を中心に紹介しています。

これまで私は「労研アーカイブ」では40本くらいの論文を紹介してきましたが、それらを振り返ってみると、現在、私たちが快適に日々の日常生活を過ごせるのは、「疲労」をテーマに取り組んできた研究者たちの恩恵によるものだと思えて知ることがあります。例えば、日本



しいな かずひと
住友電設株式会社
情報通信システム事業部

椎名 和仁

産業衛生学会は労研を中心に発足した学会でありますが、この学会と関係が深い数多くの研究者たちが医学、工学、心理学の分野で活躍され、その成果が自動運転技術、鉄道の保安装置や運転士の疲労軽減、宇宙医学、身近では作業環境の改善やストレスチェックリストなどに活かされています。また「書評」は、私にとって新しい研究動向や産業構造などを知る良い機会となっており、「労研アーカイブ」で紹介した論文が最新の研究とながっている様子が分かる時が多々あります。最新の技術や研究とは、実は先人たちの知識や知恵があつてこそ成り立つものであり、ここに「労研アーカイブ」を紹介する意義があると次第に強く思うようになりました。これからも先人たちの研究の足跡と最新の取り組みを紹介していきますので、今後ともどうかお付き合いください。